

横芝の碑 (その八)

七柱の英風

永へに存す

屋形南四角の近くに西昭寺といふ天台宗の寺があります。境内には英風永存と豪壮な文字を刻んだ碑が建っています。この碑は大平洋戦争の末期に栗山飛行場周辺の空中戦で戦死した日米両国勇士の追悼碑ですが不思議に思われるのは碑文の揮毫者が真言宗の成田山の荒木貞主であることです。

昔から上塚、蓮沼、緑海、大平の一部、横芝の鳥喰等には大正講という大師詣りの講がありました。その中でも主な人々は東総信陸観音講という集りを持っていたのです。春の訪れと共に観音経や般若経等を唱えながら近くの寺々を廻っていました。新緑の梢や桜の花を仰ぎ見る度にこの上空に散華した勇士の冥福を祈っていました。その中に東総信陸観音講の人の中から追悼碑建立の話を持ち上りました。話はとんとん拍子に進みました。屋形南の伊東倉司さんという人が成田山に縁がありましたので荒木貞主に碑文の揮毫を依頼しました。一方碑の建立する場所として西昭寺境内借用の交渉も平行し

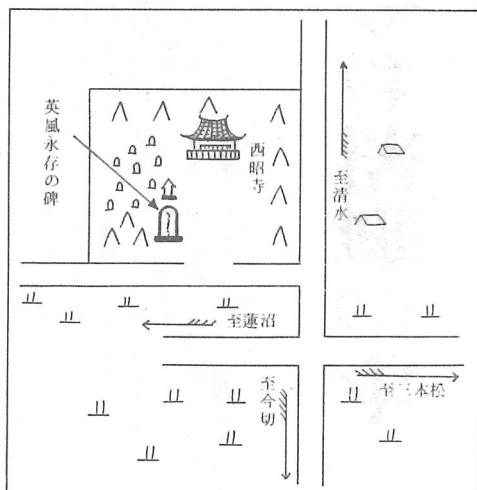
て進めました。結構な主旨でしたから心よく承諾した西昭

寺でしたが碑の揮毫者が真言宗の成田山貞主とあっては少し首をかしげてしまいました。しかし、何とか希望に添えたものと西昭寺と同じ天台宗の寺々に了解を求めに出かけたのです。ところが案ずるより何とやらで「西昭寺さんの考えに異論はない」と皆賛成してくれたのです。宗派を超越した寺々の計らいで場所も定まり、工事も順調に進み、英霊の氏名確認其他いろいろ



苦勞はありましたが昭和二十九年十二月十六日、追悼碑は立派に建立され、成田山からは荒木貞主に代って院代が来席し、上塚村内全寺院の住職

大悲光明摧破闇黒四隣萬邦歎喜和榮、東亜ノ大戦当ニ酣ナル時茲ニ鎮マル七柱ノ英霊ハルニ少壯ノ身ヲ空軍ニ捧ゲル昭和二十年十二月十六日無敵



も参列の上盛大な除幕式が執行されたということです。写真、碑の表には、英風永存、本山成田山新勝寺貞主大僧正荒木昭定敬書□□とありその下には、航空大尉大貫善典、(上塚村新島地先於戦死) 同中尉佐竹武男、(上塚村宮前地先於戦死) 同中尉関根隆二、(蓮沼村西岡〃〃) 同兵曹川上、(緑海村宿ノ下〃〃) 同兵長岩田、(大平村木力〃〃) 同兵長竹内、(南郷村上横地〃〃) 米国航空兵、(上塚村北清水〃〃) と刻まれています。川上兵曹以下姓だけであるのは多分着衣等から辛うじて姓だけ確認し得たものでしょう。碑の背面には、昭和二十九年十二月十六日

葉タバコ生産

団地化に功献

去る四月十一日熱海市ニュー富士屋ホテルにおいて、日本専売公社関東支社長から、横芝町に対してたばこ産地安定的ため昭和四十七年度特産物生産団地育成事業に特段の努力をされたということで感謝状の授与がありました。これは、現産業振興課(旧開発課)と上塚たばこ耕作改良団、専売公社千葉支局、県農産課により、たばこ耕作の近代化、特に乾燥施設としてバスケットロータリー式乾燥

ノ敵機当地ニ襲来スルヤ練習機上ヲ顧ミズ威風堂々直チニ之ヲ遊イ善戦苦闘遂ニ体当リ勇ヲ散シ敢然トシテ玉碎セラル斯ノ壯挙ヲ欽仰シタル衆庶ノ哀悼窮リ無ク光芒燦然今胸裡ニ徹ス愛ニ於テ本郡東総信陸観音講員相図リ忠魂ノ冥福ヲ祈リ益益衆生道義ノ向上ト和光愛隣ノ正氣ヲ望ミ有志ノ協賛ヲ求メ此処ニ碑ヲ建テ報國ノ熱誠ヲ讚美シ度ミテ芳ヲ千載ニ傳フ、永へに仰ぎ讀えん大空に神の………

以上の通り刻まれています。が短歌の下句は碑が苔むしているに詳かに読みとれないのが残念でした。本稿取材に当り、西昭寺住職小山俊海師の御協力をいただきました。(給食センター小沢所長寄稿)

